

成田太鼓祭 4月13・14日



響き渡る力強い音色

全国各地から集まった62団体、延べ1,500人の和太鼓奏者による日本屈指の太鼓の祭典「成田太鼓祭」が成田山新勝寺や表参道を会場に開催されました。開幕を飾ったのは約800人の打ち手が一斉に太鼓を打ち鳴らす千願華太鼓。ほかにも会場9カ所に設けられた特設ステージでの演奏や、かがり火に照らされた境内で演奏する成田山千年夜舞台などが行われ、まちをにぎやかに盛り上げました。訪れた人たちは、体の芯まで響き渡る大迫力の音色に魅了されていました。



①打ち手で埋め尽くされる境内②躍動感あふれるばちさばき③演奏最後の決めポーズ④幻想的なかがり火の中で

西大須賀の神楽 4月14日



守り継がれる地域の伝統

市の無形民俗文化財に指定されている「西大須賀の神楽」が耀窟神社で行われました。境内では釜の湯に浸したササを参詣者の頭上へ振りかざし、無病息災を祈願する湯立神事が行われた後、獅子が刀と鈴を持って舞い豊作を祈願する獅子舞が奉納されました。約200年前から続く伝統文化は、今でも地域の人々に守り受け継がれています。



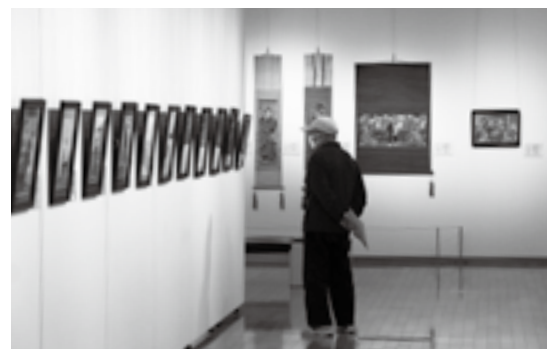
釜の湯を振り掛ける

いきでいなせな浮世絵展 4月13日～6月2日



見応えある作品が勢ぞろい

浮世絵を通じて江戸・明治時代の庶民のしゃれた姿を知る「いきでいなせな浮世絵展」がスカイタウンギャラリーで開催されています。「いき(粋)」と「いなせ(鯨背)」は日本独自の美的概念として、さっぱりとした江戸っ子の気性を表したもの。会場には、歴代の市川團十郎や成田山新勝寺参詣に集う人々などを題材にした作品が展示され、訪れた人たちはずらりと並んだ名作を、興味深い様子で見入っていました。



貴重な作品を鑑賞



中郷ふるさと交流館開館式

4月13日



生まれ変わった施設に喜びの声

旧中郷小学校跡地に中郷ふるさと交流館がオープンしたことを記念して、同体育館で開館式典が行われました。式典には地区住民などが参加し、小中学校の歴史や、学校跡地利用の経緯について説明を受けました。式典後、参加者は新しく生まれ変わった施設を内覧。新設された資料展示室には、旧中郷小学校で使用されていた思い出の品や過去の行事の写真などが展示され、当時を懐かしむ声が聞かれました。



①関係者らが集まり開館を喜ぶ②たくさんの人でにぎわう資料展示室③思い出の教室札なども展示④思い出話に花が咲く

親子たけのこ掘りと竹細工教室

4月20日



春のおいしさを存分に

旬の味覚を収穫しようと「親子たけのこ掘りと竹細工教室」が八生公民館で行われました。参加者は地元のボランティアから掘り方のコツを教わると、早速、裏手にある竹林へ。くわの扱いに苦戦しながらも、協力して掘り出すことができると満足げな表情を浮かべていました。獲れたてのタケノコをみそ汁にして堪能したり、竹細工を作って楽しんだりするなど、自然の恵みを満喫しました。



根元を狙ってくわを振り下ろす

ノルディック・ウォーク体験

4月11日



春の風を感じながら

新しい運動習慣を身に付けてもらおうと「ノルディック・ウォーク体験」が三里塚コミュニティセンターで開催されました。参加者はノルディック・ウォークの歴史とポールの使い方を学んだ後、三里塚第1公園へ移動し実践。最初はポールがうまく使えず悪戦苦闘していましたが、徐々に使い方に慣れていき、満開の桜の下でのウォーキングを楽しんでいました。



桜咲く公園を軽快に